

# Café des open

## 三浦一族

### Menu 第17回

## 富士の巻狩と 三浦一族

文／谷合伸介（横須賀市立中央図書館 郷土資料室）

鎌倉時代の武士たちにとって、日ごろから武芸を鍛錬することは大変重要でした。武士やその家人らは、館の馬場などで騎射三物(きしゃみつもの)といわれる流鏑馬(やぶさめ)・笠懸(かさかけ)・犬追物(いぬおうもの)などを行い、武芸を磨きました。一方、軍事訓練の一環として多人数で組織的に行われた狩猟法に巻狩(まきがり)というものがありません。巻狩は、獣を多人数で取り囲み追い詰めて捕獲するもので、戦闘訓練を兼ね大規模かつ組織的に行われたことから、将軍などの権力者によって催されるものでもありました。なかでも、源頼朝によって建久4年(1193)5月に行われた富士の巻狩は、武家政権を打ち立てた頼朝が武士たちの長であることを内外に示すデモンストレーションであったともいわれています。

同年5月8日、頼朝は数多くの武士らとともに「富士野藍沢」(静岡県御殿場市等)の巻狩を見るため駿河国に赴きます。そのなかには、三浦義澄と子の義村、佐原義連、和田義盛ら三浦一族の面々もおり、頼朝に伺候しました。そうしたなか、28日に事件が起こります。曾我祐成(すけなり)・時致(ときむね)兄弟が、自分たちの父を殺害した工藤祐経(すけつね)への恨みを果たすため敵討(かたきうち)を決行し、祐経は殺害されるのです。曾我兄弟の祖父で伊豆の豪族であった伊東祐親と祐経は、同じ一族でしたが、所領紛争などがあり、対立していました。祐親を恨んだ祐経は、祐親の子である河津祐泰(曾我兄弟の父)を殺害します。しかし、今度は父を殺害さ

れた曾我兄弟が祐経を恨み、頼朝も加わっていたこの巻狩のさなかに敵討を果たしました。曾我兄弟は、夜襲で仇敵の祐経を討ち取ると、頼朝を護衛する武士たちにも斬りかかります。兄の祐成は、仁田忠常によって討たれますが、弟の時致は頼朝をめがけて進んでいき、最終的には小舎人童(こどねりわらわ/雑用係の少年)の五郎丸により取り押さえられました。何故、頼朝までもが狙われたのかについては、時致の烏帽子親でもあった北条時政による陰謀ではなかったかとする黒幕説の存在も指摘されていますが、その真相はよくわかっていません。

下記の浮世絵は、時致が五郎丸によって捕えられた際の様子を描いたものです。絵の中央で羽交い絞めにされている人物が時致で、時致の視線の先には木の下に鎮座する頼朝がいます。その頼朝を囲むように武士が控えています。正面から見て頼朝の右側に描かれているのが和田義盛です。義盛は、討ち取られた祐経の遺体の検視を梶原景時とともに行いました。また、絵の右下には佐原義連も頼朝を警護する人物の一人として描かれています。なお、曾我兄弟の敵討を題材に記された『曾我物語』には、兄弟が伯母である三浦義澄の妻を頼り、頻りに三浦館を訪れていた様子などが記されています。

参考文献：坂井孝一『曾我物語の史実と虚構』（吉川弘文館、2000年）、『新横須賀市史 通史編 自然・原始・古代・中世』（横須賀市、2012年）



「建久四年五月廿八日富士之裾野曾我兄弟夜討本望之図」(横須賀市立中央図書館郷土資料室蔵)